

# FAC 6051 普天間飛行場 (Futenma Air Station)

平成 22 年度

## 1. 施設の概況

(1) 所在地：宜野湾市（字宜野湾、字野嵩、字喜友名、字新城、字伊佐、字大山、字真志喜、字大謝名、字佐真下、その他）

(2) 面積：4,806 千㎡（単位別表示：480.6ha、4.808k㎡、1,188 エーカー、145 万坪）  
(単位：千㎡) (H21.3 月末 現在)

市町村名	国有地	県有地	市町村有地	民有地	計
宜野湾市	359	—	69	4,378	4,806

注) 1. 計数は、四捨五入によっているの符号しないことがある。

2. 「0」は四捨五入の結果、単位未満を示す。

(3) 地主数：3,137 人 (H21.3 月末 現在)

(4) 年間賃借料：約 66 億 4,700 万円 (H20 年度 実績)

(5) 主要建物及び工作物

建物：基地司令部、第 36 海兵航空群司令部、格納庫、管制塔、整備修理施設、兵舎、映画館  
診療所、体育館、クラブ、教会、郵便局、売店など

工作物：滑走路 (2,800m×46m)、燃料タンク、アンテナ、プール

(6) 基地従業員数：200 人 (H21.3 月末 現在)

(7) 軍人・軍属：約 2,000 人 (第 36 海兵航空群：約 1,109 名、第 18 海兵航空管制群：約 810 名)

## 2. 米軍部隊名

(1) 管理部隊名：普天間航空基地隊

(2) 使用部隊名：普天間航空基地司令部、第 1 海兵航空団第 36 海兵航空群、第 18 海兵管制群  
第 172 海兵航空団支援中隊、第 262 海兵中型ヘリ中隊、米海軍口径測定事務所  
海軍調査部、その他

## 3. 沿革

昭和 20 年

米軍占領と同時に接收され、米陸軍工兵隊が本土決戦に備えて滑走路を建設。当時、この地域は数集落が点在しサトウキビやサツマイモ等の栽培が行われていたのどかな農業地帯であった。強制収容後、何回か基地の形態を変えつつ、本土復帰に伴い国の提供施設として海兵隊普天間基地として使用されている。

平成 5 年 9 月 27 日

隊舎等として建物約 19,000 ㎡と工作物（舗床等）を追加提供

平成 6 年 3 月 10 日

診療所として建物約 1,500 ㎡と圍障等を追加提供

平成 6 年 9 月 8 日

工作物（送油管等）として追加提供

平成 7 年 7 月 5 日

隊兵舎として建物約 5,800 ㎡と工作物（送油管等）を追加提供

平成 8 年 6 月 30 日

土地（約 9,000 ㎡）を返還

平成 8 年 12 月 2 日

沖縄に関する特別行動委員会（SACO）の最終報告で、沖縄本島東海岸沖への海上施設の建設を追求することなどを条件に、普天間飛行場の 5 年ないし 7 年以内の全面返還が合意される

平成 9 年 5 月 14 日

土地（約 470 ㎡）を返還

平成 9 年 9 月 30 日

土地（約 60 ㎡）を返還

平成 10 年 3 月 24 日	給油所として建物約 60 m <sup>2</sup> と工作物（囲障等）を追加提供
平成 10 年 12 月 15 日	工作物（送油管等）として追加提供
平成 11 年 3 月 23 日	囲障等として追加提供
平成 11 年 7 月 13 日	囲障等として追加提供
平成 14 年 2 月 7 日	倉庫として建物約 2,600 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供
平成 14 年 7 月 9 日	隊舎として建物約 3,300 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供
平成 16 年 7 月 8 日	保安柵として追加提供
平成 18 年 5 月 1 日	在日米軍再編協議最終報告で 2014 年までにキャンプシュワブ沿岸部に代替施設を建設し、移設後に返還することで日米合意。
平成 21 年 9 月 29 日	航空保安施設として追加提供
平成 22 年 5 月 28 日	平成 18 年 5 月 1 日「再編の実施のための日米ロードマップ」に記された再編案を着実に実施する決意を確認した。

#### 4. 使用目的及び使用条件 (5.15メモ)

使用目的：飛行場

使用条件：施設の使用条件及び使用期間については、特に定められていない。

その他：本施設及び区域内の指定された出入路は、合衆国軍の活動を妨げないことを条件に、地元民の通行が認められることが合意されている。

#### 5. 施設の現状及び任務

宜野湾市の中心部に位置するこの施設は、第 3 海兵遠征軍の第 1 海兵航空団隷下第 36 海兵隊航空群のホームベースとなって、ヘリ部隊を中心として 52 機の航空機が配備され在日米軍基地でも岩国と並ぶ有数の航空隊基地となっている。

この施設は、他の在沖海兵隊施設と異なり、在沖海兵隊基地司令部の管理施設外となっており、普天間航空基地隊によって管理運営され、駐留各部隊が任務を円滑に遂行できるよう後方支援活動体制をとっている。このため施設内には滑走路（長さ約 2,800m×幅 46m）、格納庫、通信施設、整備・修理施設、部品倉庫、部隊事務所、消防署があるほか、PX、クラブ、バー、診療所等の福利厚生施設等の設備があって、航空部隊として総合的に設備されている。

第 36 海兵航空群は、この施設に各中隊を配備し、上陸作戦支援対地攻撃、偵察、空輸などの任務にあたる航空部隊として同基地で離着陸訓練を頻繁に行っており、また、北部訓練場、キャンプシュワブ、キャンプハンセン等の訓練場では空陸一体となった訓練も行っている。

また、昭和 53 年 1 月、キャンプ瑞慶覧のハンビー飛行場の返還に伴い、東側に格納庫、駐機場、その他付帯施設の代替施設が建設され、昭和 56 年 9 月のヘリ中隊の変更配備、平成 4 年の再編、さらに平成 16 年からはじまったイラク戦争への派遣を経て、現在の常駐機は次のとおりになっている。

● 常駐機（52 機）

○固定翼機（16 機）

KC130 空中給油兼輸送機	12 機
C-12S 作戦支援機	2 機
UC-35 作戦支援機	2 機

○回転翼機（36 機）

CH-46E 中型ヘリ	23 機
CH-53E 大型ヘリ	4 機
AH-1W 軽攻撃ヘリ	5 機
UH-1N 指揮連絡ヘリ	4 機

## 6. 共同使用の状況

### (1) 地位協定第2条第4項 (a)

沖縄電力 (株)	電力施設用地	約 2,800 m <sup>2</sup>	昭和 47 年 5 月 15 日
〃	変電所等敷地	約 600 m <sup>2</sup>	昭和 55 年 9 月 25 日
宜野湾市	駐車場敷地	約 8,200 m <sup>2</sup>	昭和 62 年 5 月 1 日
(株) 球電舎	事務所等敷地	約 700 m <sup>2</sup>	平成 4 年 9 月 24 日
〃	〃	約 400 m <sup>2</sup>	平成 7 年 10 月 5 日

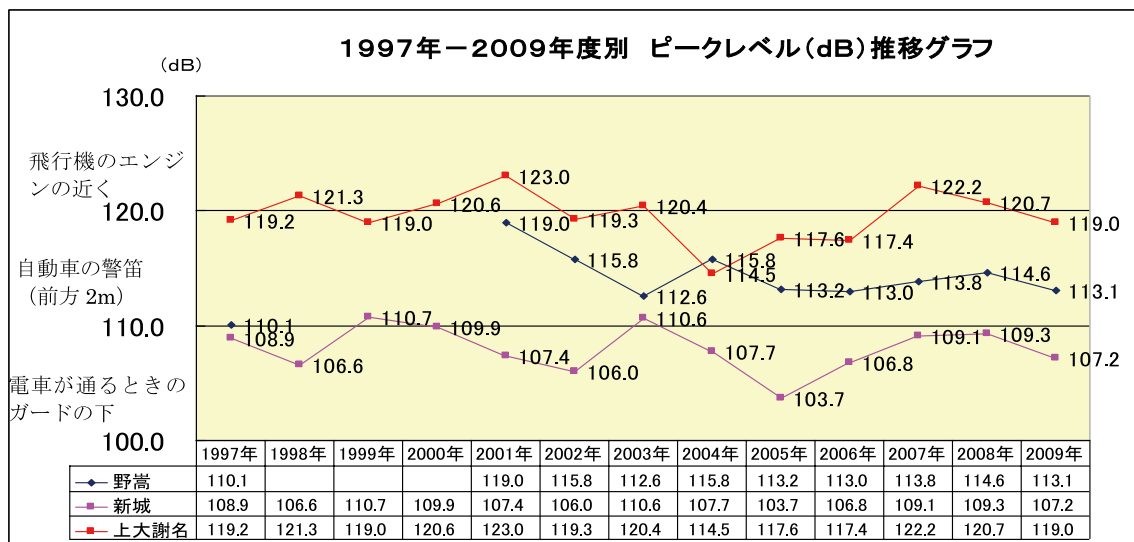
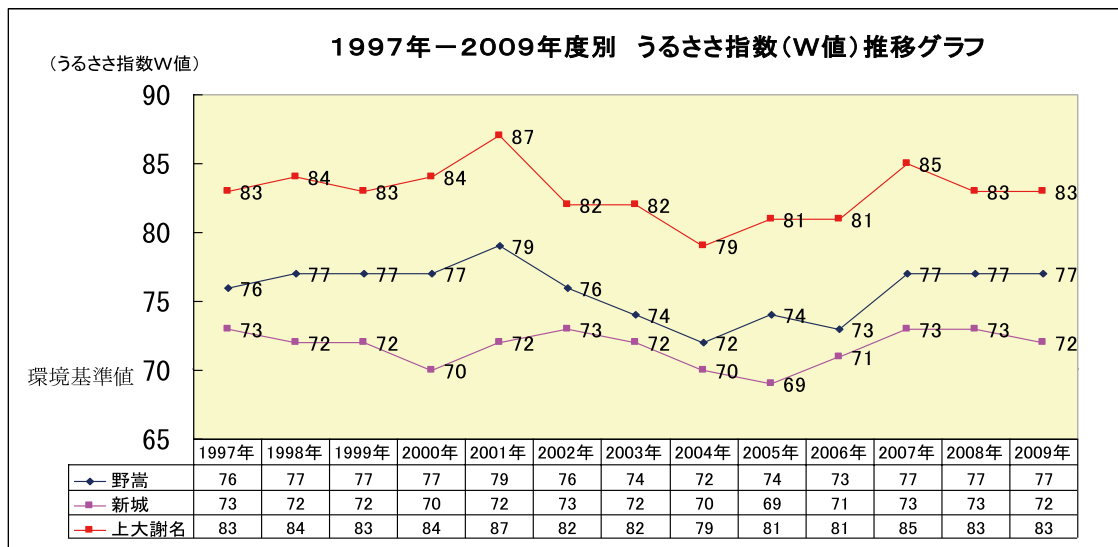
## 7. 施設周辺の状況

普天間飛行場は宜野湾市の中央部に位置し、しかも本市の全面積の約 25%を占め、施設周辺は住民地域となっているため、航空機騒音、墜落事故、雨水排水被害、道路交通網の遮断による経済的損失、都市開発等地域振興上の障害等の問題がある。

### (1) 航空機騒音について

普天間飛行場における大型輸送機、ジェット戦闘機による離着陸訓練、ヘリコプターによる住民地域上空での低空飛行訓練、夜間のエンジン調整音と間断なく発生し、家族にとって一番大切な時間帯である午後 6 時から 8 時の間にも住宅地域上空を飛行し家族だんらんを壊し生活環境、学習環境に甚大な被害をもたらしている。

普天間飛行場周辺での騒音測定結果によれば WECPNL (うるささ指数) が環境基準値を超過している市内測定局は 3 箇所あり一向に改善されていない。



また、騒音測定結果では、年間を通じて最も騒音値の高いピークレベル（d B）も測定していて、毎年の騒音ピークレベルは 100 d B 以上の値を示している。特に年間を通じてうるささ指数 80W を超える上大謝名地区においては 120 d B の騒音を記録し、「飛行機のエンジンの近く」に相当する爆音が生じている。

このような普天間飛行場周辺の騒音に対し、周辺住民約 400 人が国を相手に夜間から早朝までの飛行差し止めと飛行場周辺の騒音測定義務及び精神的、身体的被害の損害賠償等を求めた「普天間爆音訴訟」の控訴審判決（平成 22 年 7 月 29 日）において、裁判所は一審同様に普天間飛行場の供用について、違法な権利侵害ないし法益侵害で普天間飛行場の設置又は管理の瑕疵があるとして、損害賠償請求を認め、賠償額の倍増を認定している。また、回転翼機から発生した低周波音による健康被害を初めて認定したことは前進した判決であり、大きく評価されるものである。

## (2) 航空機墜落事故等について

普天間飛行場に所属する航空機の墜落事故などの発生件数は、復帰以降、平成 23 年 1 月末現在で固定翼機 11 件、回転翼機 76 件の計 87 件となっている。

### 最近の航空機墜落事故等

発生年月日	関係市町村	種類	事故の概要
平成 8 年 10 月 2 日	名護市	不時着	普天間飛行場所属の CH-46 シーナイト中型ヘリが北部訓練場から同基地に戻る途中エンジントラブルで名護市嘉陽小学校前の海岸に不時着
平成 8 年 10 月 15 日	宜野湾市	燃料漏れ	普天間飛行場所属の第 152 海兵隊空中給油兼輸送中隊の KC-130 ハーキュリーズが、同飛行場格納庫付近でエンジンテスト中、同機の燃料タンクから航空燃料約 380 リットルが漏れる。
平成 9 年 5 月 14 日	海上	落下物	普天間飛行場所属の CH-53E が海上を飛行中重量 2 キロのギアボックスのカバーパネルを落下（落下場所は不明）。
平成 10 年 7 月 23 日	宜野座村	墜落	米海兵隊第 31 海兵遠征部隊所属の UH-1N ヒューイヘリ（乗員 4 名）が着陸に失敗し、宜野座村の水源涵養林に墜落。乗務員 4 人が軽傷を負った。
平成 11 年 4 月 19 日	国頭村 (海上)	墜落	海兵隊普天間基地所属の海兵隊ヘリ CH-53E（乗員 4 名）が夜間洋上飛行訓練中に国頭村安波の大崎沖海上に墜落。乗務員 3 名の遺体を収容したが 1 名が不明。
平成 11 年 8 月 11 日	東村	不時着	海兵隊普天間基地所属 UH-1N ヘリがエンジンオイル漏れを起こし東村平良の村営屋外運動場に不時着。乗務員にけがはなし。
平成 12 年 4 月 10 日	山口県	不時着	山口県蓋井島にヘリコプター 2 機が不時着。岩国から金海に向かう途中視界不良や強風のため雑木林に着陸。けが人はなし。
平成 12 年 4 月 18 日	愛媛県	不時着	愛媛県三崎町井野浦の海水浴場の砂浜に AH-1 攻撃ヘリコプター 1 機がエンジントラブルのため不時着。ヘリの乗員 2 名にけがはない。
平成 12 年 8 月 4 日	宜野湾市	緊急着陸	宜野湾市の米軍普天間飛行場で KC-130 空中給油兼輸送機が 4 つのプロペラエンジンのうち左翼の第 2 エンジンが止まり緊急着陸。けが人はなし。
平成 12 年 12 月 20 日	佐賀県	不時着	普天間基地所属の CH-46 輸送用ヘリ 1 機が岩国基地から戻る途中、油圧装置の異常で諸富町の休耕田に不時着した。2 機編隊で飛んでいたため、もう 1 機もともに近くに着陸した。
平成 12 年 12 月 28 日	与那城町	不時着	CH-46 型ヘリがエンジンの油圧系統の異常を示すランプが点灯したため、与那城町屋慶名の同町役場向かいの造成地に不時着した。現場には作業員 20 名がいたがけが人はいなかった。
平成 13 年 2 月 5 日	宜野湾市	空中接触	CH-53 大型ヘリ 2 機が訓練から普天間基地に戻る途中、普天間基地上空で接触し、1 機は回転翼に小さな損傷を受け、別の 1 機は垂直尾翼に約 30cm 四方の穴が開いたが無事に着陸した。けが人なし。

平成 13 年 6 月 13 日	宜野湾市	落下物	CH-53E ヘリが緑地を上空飛行しながら普天間基地へ接近していたが、着陸態勢のポジション取りで急旋回した。そのためヘリ後部の脱出用窓から宜野湾市大山の住宅隣りに防弾チョッキなどが入った袋（2 個、総重量 23kg）が落下した。その数分前まで住人が掃除をしていた。一歩間違えたら人身事故が発生するところだった。
平成 14 年 3 月 4 日	宜野湾市	火災	普天間飛行場の駐機場で CH-53E ヘリの整備中に機体のヒーターより出火。30 分後には鎮火。
平成 14 年 4 月 17 日	宜野湾市	落下物	普天間飛行場で離陸直後の CH-53 ヘリから人為的ミスにより燃料補助タンクが 2 個滑走路上へ落下した。けが人はなし。
平成 14 年 8 月 2 日	宜野座村	不時着	普天間飛行場所属の CH-53 ヘリが海上を飛行中、3 つあるエンジンの 1 つにトラブルがあり、海岸へ不時着。安全性を確認後普天間飛行場へ戻った。
平成 14 年 8 月 7 日	嘉手納町	緊急着陸	普天間飛行場から飛び立った同基地所属の UH-1 ヘリが嘉手納基地から離陸しようとした際、パイロットがフライトコントロール（操縦桿）に異常を感じ、予防のため再着陸した。その際、緊急車両が出動した。
平成 15 年 1 月 18 日	宜野湾市	落下物	米海軍所属の P3C 対潜哨戒機が訓練中に緊急発進装置が組み込まれたカバー（大きさ：約 40cm、重さ：約 2～5kg）が普天間飛行場内に落下した。
平成 15 年 6 月 20 日	宜野湾市	走行中の車輪格納	普天間飛行場内の誘導路で、CH-53 ヘリが滑走路に向かう途中、車輪が収納したため立ち往生。人的被害や火災はなし。
平成 15 年 6 月 20 日	宜野湾市	緊急着陸	普天間飛行場所属の KC-130 中型輸送機が、4 つあるエンジンの 1 つに異常を示す計器ランプが点灯したため、緊急着陸をした。
平成 16 年 8 月 13 日	宜野湾市	墜落	米海兵隊所属 CH-53D 大型輸送ヘリ 1 機が沖縄国際大学構内本館ビルに接触後、墜落炎上。乗務員 3 名のうち 1 名が重傷、2 人が軽傷。民間人に負傷者なし。
平成 16 年 10 月 21 日	宜野湾市	緊急着陸	普天間飛行場所属機の KC-130 機が訓練時に油圧計異常を示したため緊急着陸をおこなった。
平成 17 年 6 月 16 日	県外	落下事故	米軍普天間飛行場所属の KC-130 空中給油機が 6 月 16 日山口県の岩国基地から東京都の横田基地に飛行した際に着陸灯カバーを落下し、未回収となっている。
平成 18 年 4 月 3 日	大分県	緊急着陸	普天間飛行場所属 CH-46 ヘリが韓国との合同訓練の帰途、4 機のうち 1 機が警告灯に気づき、大分空港に緊急着陸。けが人なし。
平成 18 年 4 月 17 日	嘉手納町	緊急着陸	AH-1 攻撃ヘリ 1 機が嘉手納空軍基地へ緊急着陸。けが人はなし。
平成 18 年 6 月 28 日	宜野湾市	緊急着陸	普天間飛行場所属の KC-130 空中給油機 1 機が左翼側のプロペラを停止させたまま同飛行場に緊急着陸。けが人はなし。
平成 18 年 12 月 13 日	読谷村	車両落下	普天間基地所属の CH-53E 大型輸送ヘリがワイヤで吊り下げ運搬中の廃車を海上に落下させた。けが人なし。
平成 19 年 2 月 14 日	金武町	緊急着陸	普天間飛行場所属の AH-1 ヘリと UH-1N ヘリの 2 機が悪天候を理由に金武町のギンバル訓練場南側の駐車場に緊急着陸した。
平成 21 年 6 月 16 日	宜野湾市	緊急着陸	普天間飛行場所属 KC130 空中給油機 1 機が普天飛行場内に緊急着陸した。在沖米海兵隊報道部によると「飛行中、小さな点検すべき問題があった」「事故なく着陸後、直ちに修理した」と発表した。

### (3) 雨水排水被害について

この施設は、比較的高台に位置しており、しかも施設内の排水施設の整備が不十分なため、大雨の際は施設内から雨水・汚水があふれ、周辺住宅、道路等が冠水するなど、たびたび被害をもたらしている。

### (4) 道路交通網の遮断による経済的損失及び地域振興上の障害について

宜野湾市の中心部にこの施設が位置するため、公共施設の整備をはじめとする都市計画の決定、執行はもとより周辺集落間の道路交通網が遮断され、均衡のとれた土地利用と街づくりができない状況である。また、同施設は那覇市と沖縄市を結ぶ都市軸上の中心に位置し、中南部都市圏の都市開発整備を図る上からも重視されている。

# 普天間飛行場に常駐する米軍機



■CH53E シースタリオン

回転翼直径 24.08m、胴体全長 22.35m、全高 5.32m、自重 15,071kg、総重量 31,638kg、発動機 GE T64-416 4,380shp×3、航続距離 2,075km、最大速度 315km/h



■CH46E シーナイト

回転翼直径 15.24m、胴体全長 13.59m、全高 5.09m、自重 4,868kg、総重量 8,618kg、発動機 GE CT58-110 1,250shp×2、航続距離 175km、座席数 32



■UH-1N ヒューイ

[データ：212型] 回転翼直径 14.69m、胴体全長 12.92m、全高 4.53m、自重 2,517kg、総重量 5,080kg、発動機 P&WCPT6T3B 1,800(減格 1,350)shp×1、航続距離 420km、座席数 15、最高速度 259km/h



■AH-1J ヒューイ (シーコブラ)

回転翼直径 13.41m、胴体全長 13.56m、全高 3.68m、自重 2,940kg、総重量 4,536kg、発動機 Lyp、T53-703、1,800shp×1、航続距離 507km、乗員 2名



■KC-130 ハーキュリーズ

中距離輸送、空中給油にも使われ、頑丈な脚とすぐれた離着陸性能を持っており前線にも強行着陸が可能である。全幅 40.41m、全長 29.78m、全高 11.66m、自重 34,169kg、有効搭載量 20 トン、乗員 5 名、兵員 92 名



■C-12 ビーチクラフト スーパーキングエア

全幅 17.24m、全長 13.34m、翼面積 28.15 m<sup>2</sup>、全高 4.42m、発動機 P&WCPT6A-4 850shp×2 自重 3,419kg、最大速度 548km/h、巡航速度 459km/h、航続距離 3,135km



■UC-35

全幅 15.91m、全長 14.90m、全高 4.64m、エンジン P&W カナダ JT15-5D×2、航続距離 3,628km、自重 4,196kg、乗員 2 名、乗客 8 名